

福島民友

2020年5月22日(金)

アポロガス、マスク5000枚贈る

ガス・灯油供給販売や太陽光発電などを手掛けるアポロガス(福島市)は14日、感染拡大防止に役立ててもらおうと、福島市に子ども用マスク5千枚を贈った=写真。

市役所で贈呈式が行われた。相良元章社長が木幡浩市長に目録を手渡した。同社の篠木雄司会長、佐藤直弘常務執行役員らが同行した。同社はこのほか、桜の聖母学院幼稚園・小学校に3千枚、青葉学園、アイリス学園、福島愛育園に各2千枚のマスクを贈った。



マスク作りは信夫学習センターが中心となって地域住民に呼び掛け、参加者に材料を提供。それぞれが作製した。参加した松下つめ子さん(64)は東日本大震災の影響で9年前に飯舘村から避難しており「近隣に住む人に仲良くしてもらった。その恩返しとして作った」という。

この日は作製に関わった婦人会などが同校を訪問。佐藤浩昭校長(56)にマスクを手渡した。ほかに作製した約1100枚のマスクは信夫中、平田小、平石小、鳥川小に贈った。